



「みどりのチカラ、みんなにトドケ。」

私たち水土里ネット熊本は、子どもたちの明るい未来を見据え、職員一人ひとりがこの想いを胸にし、農業・農村を元気にする様々な取り組みをおこなっています。

midorinet are fabulous!
～水土里ネットは最高だ!～

みどり
水土里ネット熊本
水土里ネット (熊本県土地改良事業団体連合会)

熊本の農業・農村を支える 水土里ネット

住所：熊本市北区龍田陳内3丁目15番1号
TEL：096-348-8801 FAX：096-348-8011
URL：http://www.higosanae.or.jp/

熊本県農林水産部農村振興局より提供頂いた写真を一部使用しています。

「くまもとの水土里ネット」ポスター



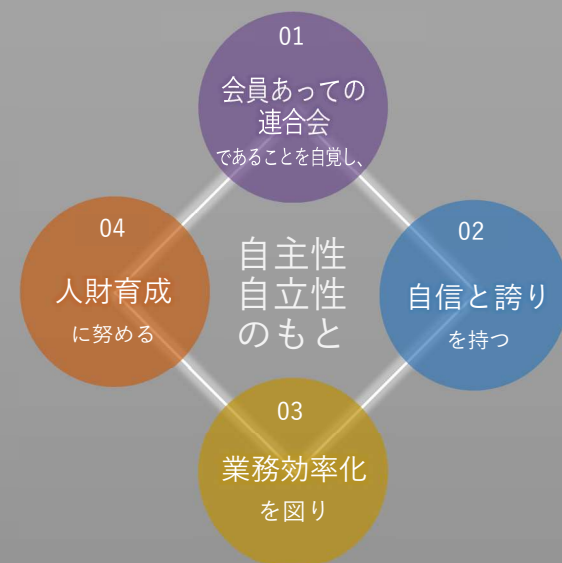
- 1 H24 年度 活動が地域、熊本、日本、地球に寄与
- 2 H25 年度 多面的機能の発揮
- 3 H26 年度 地下水と土の保全
- 4 H27 年度 強い農業と活力ある農村
- 5 H28 年度 災害に負けない農業・農村
- 6 H29 年度 笑顔あふれる農業・農村
- 7 H30 年度 平成で果たした役割と新たな時代への展望
- 8 R1 年度 農村の美しさを影で支える水土里ネット
- 9 R2 年度 どんな時代でも立ち上がれる
- 10 R3 年度 田んぼのチカラが地域を守る大きなチカラに
- 11 R4 年度 みどりのチカラ、みんなにトドケ。

R5 vol.11

シンプルさと彩りを重視すると共に、どこに張っても映えるような写真を選別。将来の農業を担う子どもたちにも水土里ネットのことを知ってもらいたいという思いを込めました。

さらに、土地改良の小さな取り組みがやがて大きな力に変わることをシャボン玉で表現しています。

ポスターに書かれたメッセージは、土地改良（土地改良区）が農業生産性や食料自給率（食料自給力）の向上に繋がり、日本の農業を支える重要な存在であることを、すべての人に知ってほしいという願いを込めています。



会務遂行スローガン

水土里ネット熊本は、技術者集団という枠に留まらず、地域の豊かな水・土・里を未来に繋げ、より良い農業・農村の在り方を熊本から全国に発信しています。

そのため、職員一人ひとりが自主性・自立性のもと、会員あつての組織であることを自覚し、土地改良事業のプロフェッショナルとしてのプライドを持ち、最新鋭のツールを用いた効率的な業務推進と、人（財）育成に努めています。

大規模災害や新型コロナウイルス等、困難な時代においても、私達はその歩みを止めず、農業の収益性向上・競争力強化並びに防災・減災・国土強靱化を目指した「産業政策」と農村の地域資源の保全・活用や地域社会の維持・活性化を目指した「地域政策」を支援し、熊本県の農業・農村の政策実現に大きく貢献して参ります。

産業政策



基盤整備事業による波及効果の発揮を見据えた基礎的支援 ----- P1



農地利用集積率の向上を支援 ----- P3



農業水利施設の維持管理・長寿命化に関する技術的支援 ----- P5



災害への備えと防災重点ため池対策への支援 ----- P7

地域政策



農業・農村の多面的機能を次世代に繋ぐ地域や土地改良区の活動を支援 ----- P9



その他



土地改良区の運営基盤の強化、県内及び全国へ水土里ネットの役割をPRする活動 ----- P11



基盤整備事業による波及効果の発揮を見据えた基礎的支援

将来を見据えた基盤整備事業との関わりが 農業・農村を元気に

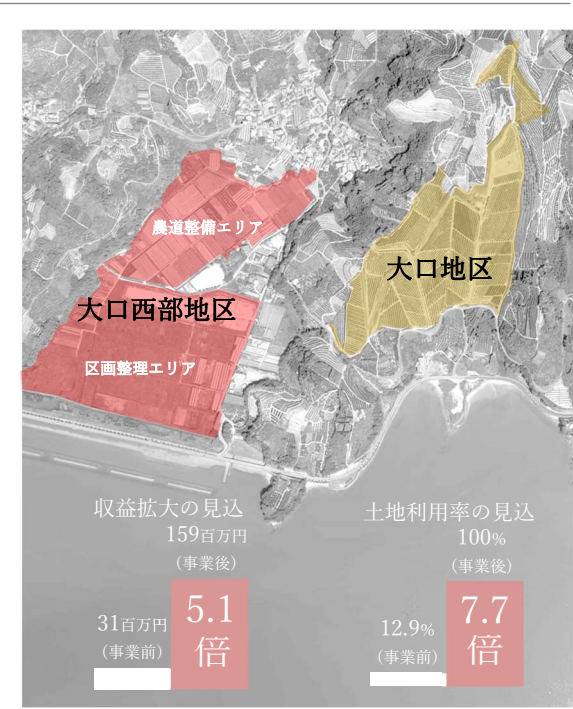
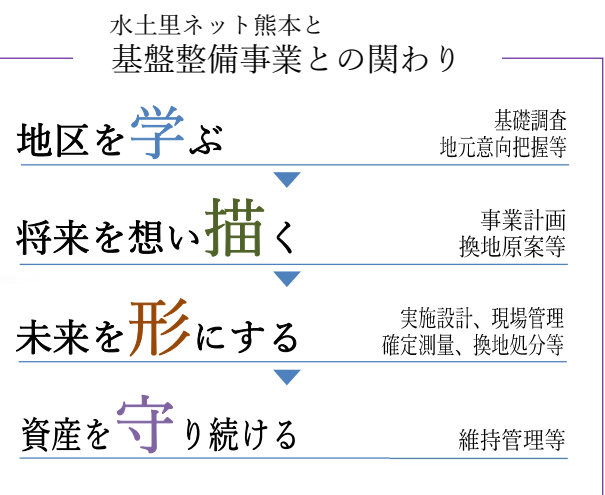
熊本の基幹産業である農業。農業が産業として有り続けるためには、担い手の育成、高収益作物の導入、効率的な営農の展開を実現する基盤整備事業の計画的な実施、更にはその機能を長寿化化する取り組みが不可欠です。

水土里ネット熊本は、これまで、県内各地域の基盤整備事業に事業構想段階から計画し、調査、測量、設計、換地などのあらゆる分野に携わってきました。そして、事業完了後も地元に寄り添い、施設の長寿化に向けた維持管理を支援するなど、基盤整備事業に多角的かつ深く関わり続けてきました。

基盤整備事業への長期にわたる関わりは、農産物の生産性や品質の向上に限らず、担い手の育成や農地利用集積の向上、収益性の高い作物の導入を実現しています。

また、基盤整備の効果は直接的な効果に留まることなく、新たな雇用創出や地産地消など波及的な広がりをみせ、県内各地の農業・農村を元気にしています。

水土里ネット熊本は、農村地域における将来の波及効果の発揮を見据え、県内各地の基盤整備事業を下支えしています。

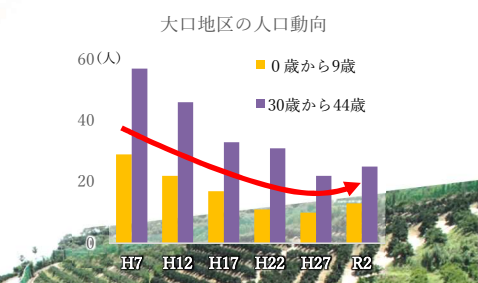
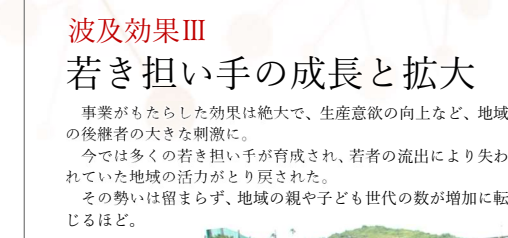


波及効果Ⅱ【大口西部地区】
新たな生産拠点の創造

大口地区の成功を受け、隣接する荒廃農地を整備し、更なる収益増を目指している。
(畑地帯総合整備事業大口西部地区)



事業が叶える 豊かな未来 と地域の絆



基盤整備事業の
一番の理解者であり続けることが

未来の農業の力に

水土里ネット熊本は、これまで、そしてこれからも、熊本の農業を支える基盤整備事業の一番の理解者であり続けます。そのことが熊本県の未来の農業を支えていく力になると信じています。



基盤整備事業が生み出す波及効果
宇城市三角町【大口地区、大口西部地区】

農地利用集積率の向上を支援

基盤整備事業における 農地利用集積の プロフェッショナルとして

農地利用集積は営農の効率化を促し、稼げる農業の実現、ひいては持続可能な地域農業を確立する手段として、県内各地で取り組まれています。

水土里ネット熊本は、基盤整備事業の実施地区において、事業着手前から熊本県と一体となり、換地業務や土地利用調整指導業務に取り組むなど、農地利用集積に対する総合的な支援を行っています。

そのため、令和4年5月に法制化された人・農地プランにつきましても、これら実施地区における集積計画と共に、事業の進捗や地域の課題に応じた計画の見直しなど、市町村や地域のニーズに応じた提案を可能としています。

このように、水土里ネット熊本は、農地利用集積に伴う様々な問題点を解決し、各地区で掲げる高い集積目標の達成をより確実なものとすることで、県下全域の地域営農の底上げに大きく貢献しています。

農地利用集積実務者

市町村 土地改良区 担い手 JA

「農地利用集積」を図る多彩なメニューと強固な連携で各地区を支援

水土里ネット熊本

－ 換地業務 －

農地状況調査 換地計画作成 集積計画作成 集積状況確認・相談

換地処分 相続調査 集積計画変更 勉強会講師

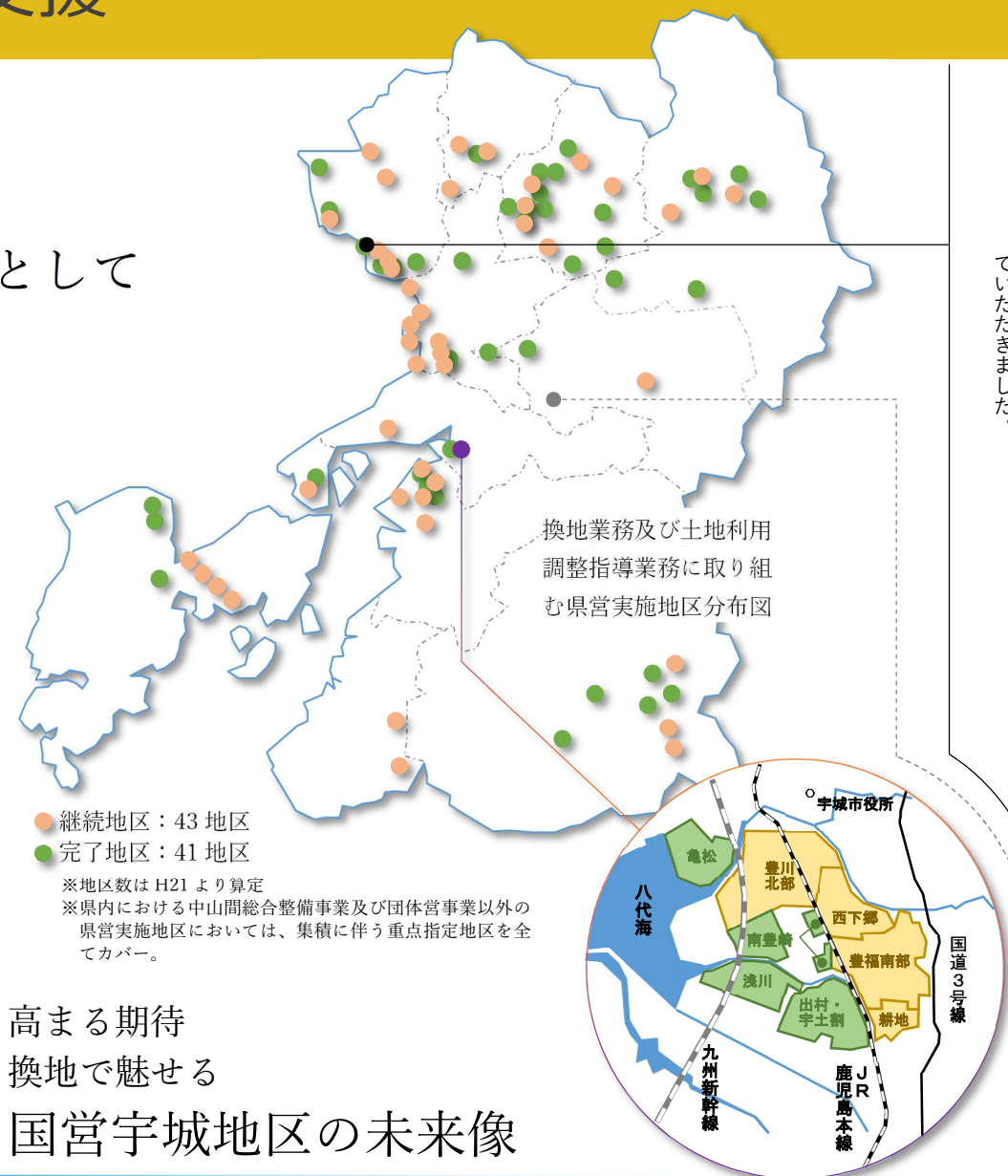


強固な連携体制

九州農政局

熊本県

農地中間管理機構



高まる期待 換地で魅せる 国営宇城地区の未来像

「宇城地区国営緊急農地再編整備事業」は令和2年度に全8換地区が事業採択され、今年度は「亀松換地区」「出村・宇土割換地区」において、地元の声を最大限に生かした「換地計画原案」が完成し、ほ場整備に対する地元の期待値もこれまで以上に高まっています。

水土里ネット熊本は、換地のプロフェッショナルとして、これからも地元へ寄り添いながら、熊本県の農業生産拠点となる国営宇城地区を全力でサポートして参ります。



換地配分の実施状況（出村・宇土割地区）

集積計画の成果が実を結ぶ！
水土里ネットと共に歩んだ10年間

集積率 22.1%→80.8%達成

荒尾市の「県営土地改良事業 川登地区（受益面積34.0ha）」は、平成25年度の事業採択から約10年の期間を経て、今年度に換地処分登記が完了しました。川登地区は、田越しの用排水兼用水路で、耕作地も分散していたことから作業効率も悪く、3割程度は耕作放棄地でした。水土里ネット熊本には、換地や集積のプロフェッショナルとして事業開始から完了まで長きに渡り携わっていただきました。



INTERVIEW
KAWANOBORI

農地集積の先進的なモデル地区でもあり、耕作者ごとに農地を集積することができたので、作業効率を大幅にアップさせることができました。土地持ち非農家の方々も含め、事業を実施して本当に良かったと感じています。



RYOICHI UEDA 上田 良一

元荒尾市職員。退職後、令和4年度に至るまで換地委員長を歴任。農業競争力強化基盤整備事業における中心経営体農地集積促進事業に県内でもいち早く取り組み、地区をとりまとめた。県外からも多くの研修依頼が寄せられ、その見識の深さから、講師を担うこともしばしば。

新規地区、続々と 糸田地区（甲佐町）



甲佐町の糸田地区（58.0ha）



令和7年度事業採択に向けて、今年度より推進委員会や地元説明会が開催

約7割の整備率を誇る熊本県においても、続々と新規や再整備地区の要望があがっています。水土里ネット熊本は、地元からいただいた声を大切に、事業完了を終点ではなく新たな出発点として捉え、地域を全力でサポートして参ります。

いざ『稼げる農業』の加速化と、 『未来に夢を持てる力強い農業』 の実現に向けて

水土里ネット熊本は、地元へ寄り添い、意欲ある担い手への農地利用集積を支援することで、『稼げる農業』を加速化し、「未来に夢を持てる力強い農業」の実現に大きく貢献して参ります。

農業水利施設の維持管理・長寿命化に関する技術的支援

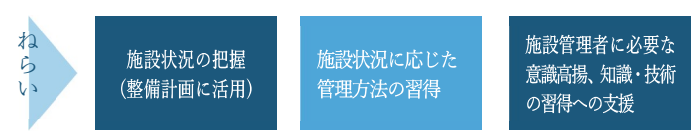
農業水利施設の オールラウンダーとして

農業水利施設は、食料の安定供給を支える基幹施設であるとともに、洪水防止、水質浄化、防火用水などの多面的機能を有し、地域にとっても重要な社会資本となっています。

しかし、県内の多くの施設は造成から長い年月が経過しており、特に排水機場では、『168』箇所のうち約7割に当たる『112』箇所で耐用年数20年を超過(うち78箇所においては30年以上が経過)し、突発事故等による湛水被害も危惧されるため計画的な施設更新が急務となっています。

水土里ネット熊本は、施設の更新整備が実施されるまでの間、これらの施設が、突発的な災害に耐え、必要な機能が適正かつ安定的に発揮されるよう、施設の診断・管理指導、整備補修、点検、技術者派遣等、幅広い技術的支援を行っています。

導く 診断・管理指導、研修・教育【土地改良区体制強化事業】



防ぐ 点検【排水機場等管理業務】



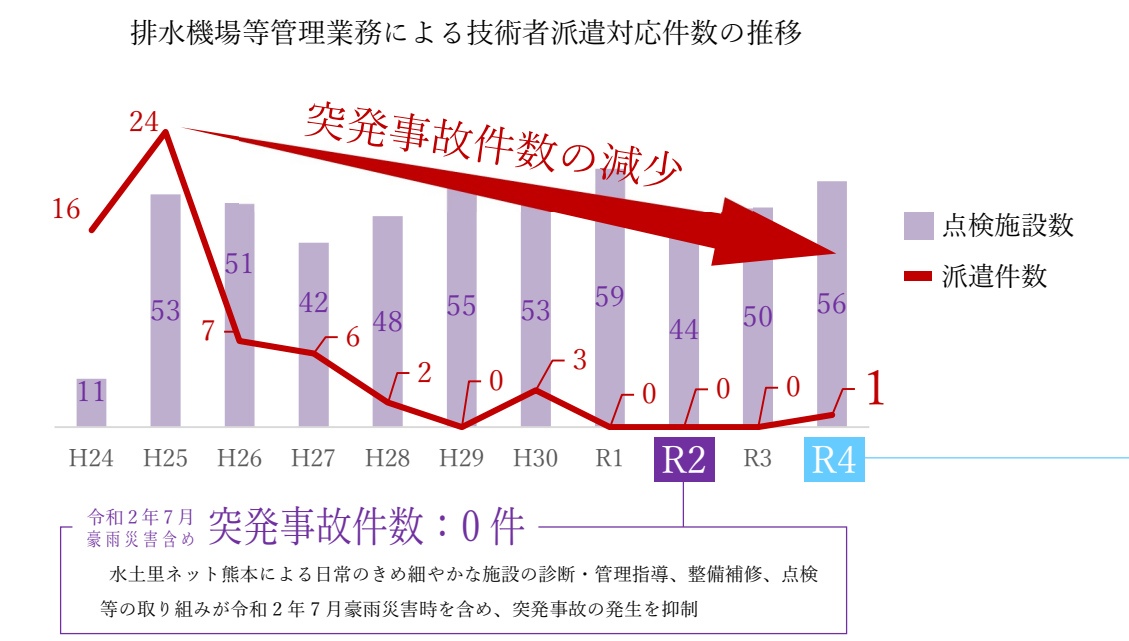
補う 整備補修【土地改良施設維持管理適正化事業】



育む「農業用水」、繋がる「防災・減災」、 叶える「稼げる農業」

これまでの、水土里ネット熊本による「導く」、「防ぐ」、「補う」の取り組みが、県内各地の農業水利施設の機能を適切に維持・保全し、農業用水の安定供給に繋がっています。令和2年7月豪雨災害をはじめ、近年、大規模災害が多発していますが、これらの取り組みを通じて施設管理者の育成が図られていることで、緊急的な技術者の派遣や突発事故は減少傾向にあります。

水土里ネット熊本の取り組みは、施設の長寿命化によるライフサイクルコスト低減に加え、農業や農村地域の「防災・減災」に繋がり、農家の「稼げる農業」の実現に大きく貢献しています。



Hot Topics

災害を未然に防ぐ技術力

R4.9.18 氷川排水機場

Accident Response
事故対応

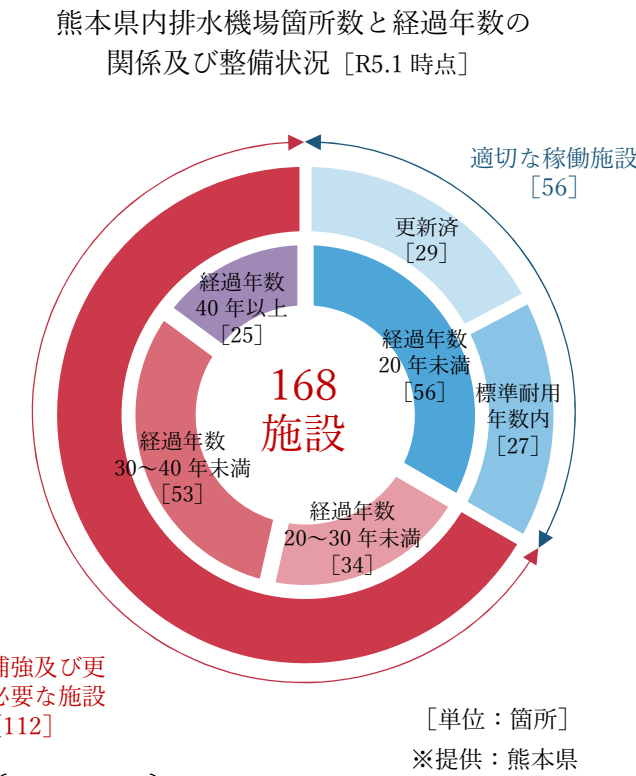
台風14号が令和4年9月18日、県内各地で暴風と大雨をもたらす中、氷川排水機場にて排水運転のトラブルが発生。氷川町による派遣要請を受け、水土里ネット熊本の専門スタッフが現地に駆けつけ診断。速やかに原因を特定し、応急処置を行うことで正常な動作を取り戻した。水土里ネット熊本による緊急時の的確かつ迅速な状況判断とその対応力が災害を未然に防いだ。

1 点検途中に漏水検知器内部を直接確認。フロート輪の回着を確認

2 分解後、表面のさびを落とし、凹凸部の研磨作業を実施

3 すべての処置を実施後、正常に排水運転できることを確認

4 漏水検知器のランプの正常点灯により、作業が正常に完了したことを確認



災害への備えと防災重点農業用ため池対策への支援



あってはならない災害
無くてはならない備え

私たち水土里ネット熊本は、これまで多くの災害復旧に携わってきましたが、熊本地震や令和2年7月豪雨災害を教訓とし、近年相次ぐ大規模災害に対する備えを強化しています。

加えて、災害発生時、会員である市町村・土地改良区を迅速に支援するため、より多くの職員が様々な被災状況に対応できるよう、研修会等を通じ、測量・設計技術の研鑽並びに支援体制の強化に努めています。

また、令和3年5月に開設しました「熊本県ため池サポートセンター」も2年目を迎え、ため池管理者からの日常管理や維持管理方法等の相談対応の他、現地パトロールによる管理状況や問題点の把握など、ため池の適正管理に係る万全の支援体制を構築しています。

あってはならない災害ですが、水土里ネット熊本は、これまでも、そしてこれからも、市町村や土地改良区にとって「無くてはならない災害の備え」として在り続けます。



実務研修会を開催し、技術力の底上げを図る

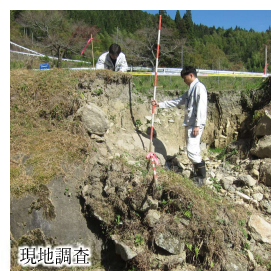


経験豊富なスタッフが若手を丁寧に育成

災害対策のプロ集団が 被災農地を救う 令和4年台風14号による災害対応



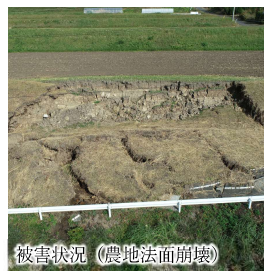
災害対策班の執務状況



現地調査



被害状況（農地埋没）



被害状況（農地法面崩壊）

- 9月18日 令和4年台風14号により県南部を中心に被害が発生。
- ▶被害状況調査（9月下旬） 被害箇所数及び被害額を迅速に把握するため、会全体で被害状況の調査を実施。（278箇所）
- 10月7日 査定設計書作成の対応に向けた会議を開催。
- 10月19日 本部3階に災害対策班を設置、技術職員16名を4班体制で配置し、円滑な災害査定を支援。
- 12月16日 全査定完了。（67箇所 9市町村）
- ▶実施設計業務（査定後～現在） 早期の災害復旧に向けて、引き続き実施設計業務を遂行中。

ため池に関する あらゆるリスクを限りなくゼロに 【ため池サポートセンター】

「熊本県ため池サポートセンター」には、ため池保全に関するスペシャリストが常駐しています。

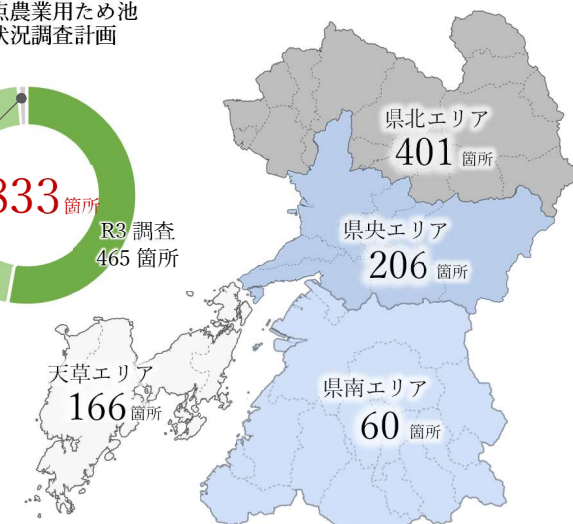
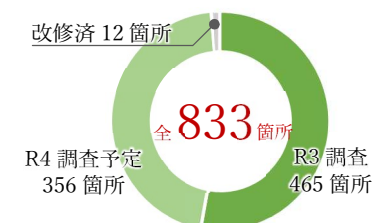
ため池管理者からの相談、日常点検の技術指導や現地パトロール、技術的な研修会などの啓発活動をワンストップで対応し、突発事故、豪雨による決壊等、ため池に関するあらゆるリスクを未然に回避しています。



- | | |
|---|---|
| 1 | 4 |
| 2 | |
| 3 | |

- 1 ため池管理者への相談業務対応
 - 2 漏水量調査
 - 3 令和4年度農業用ため池の管理・保全研修会(天草市)
 - 4 熊本県ため池協議会役員による要請・要望活動写真
- 左より、清藤熊本県ため池協議会副会長、守田宇城市長、青山農村民振局長、元松熊本県ため池協議会会長、早田熊本県ため池協議会副会長、久保田熊本県ため池協議会副会長

防災重点農業用ため池劣化状況調査計画



防災重点農業用ため池データの一元化

ため池に関する災害発生を未然に防止するためには、日常の適正な保全管理が欠かせません。そのため市町村においては、現在の管理状況を適切かつ速やかに把握することが求められています。水土里ネット熊本は、県内全ての防災重点農業用ため池833箇所について、劣化状況調査を実施し、市町村が適切に状況把握を行うためのデータ整備を行っています。

NEW

期待する 水土里ネット熊本の役割

改正土地改良法による「土地改良事業の工事の委託」への取り組み

令和4年4月に施行された改正土地改良法では、市町村、土地改良区等が緊急的な防災・減災対策や小規模な基盤整備を機動的かつ円滑に実施できるよう、土地改良事業団体連合会が会員から委託を受けて土地改良事業の工事（工事代行業務）を行うことができるようになりました。

まだ多くの課題がありますが、本会では、会員の負託に応えられるよう、この工事代行業務に係る情報の収集・分析を行い、昨今の市町村や土地改良区等の技術職員の減少に対応すると共に、更なる農業・農村の発展に貢献して参ります。

農業・農村の多面的機能を次世代に繋ぐ地域や土地改良区の活動を支援

『水』『土』『里』の美しさを

次世代に繋ぐパートナーとして

導 く

事務研修
抽出検査

技術研修

築 く

新規役員研修会
広域化推進勉強会

拡 げ る

田んぼダムの取組推進、
普及・拡大

農業・農村が持つ多面的機能は、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成等、その発揮により県民に多くの恩恵をもたらしています。

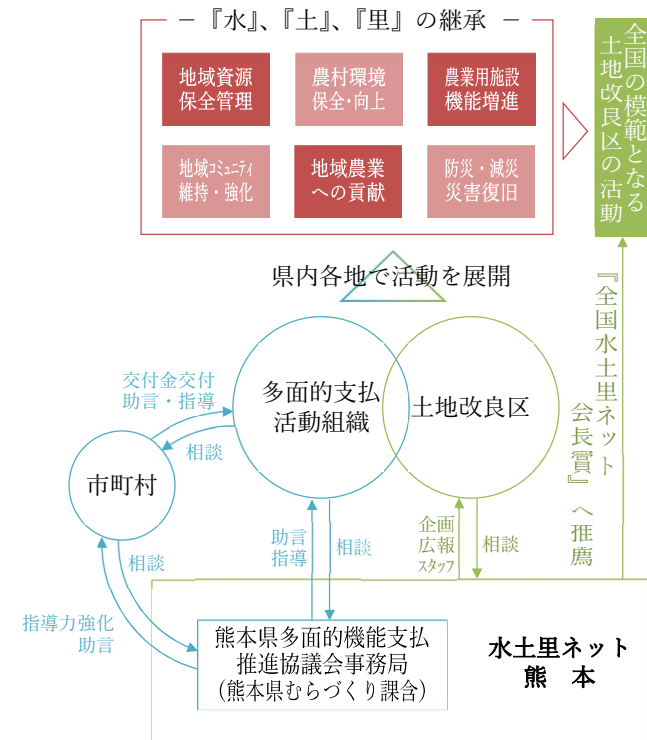
しかし、農村地域の過疎化、高齢化、混住化等の進行に伴う集落機能の低下に加え、近年の激甚化する豪雨災害等の影響により、地域の共同活動に支えられている多面的機能に支障を来しつつあります。

そのため、土地改良区と水土里ネット熊本は、県内各地で「田んぼの学校」を始めとする様々な活動や「田んぼダム」の普及啓発を目的とした取り組みを展開し、将来を担う地域の子どもたちや住民の農業・農村に対する理解の醸成に努めています。

また、水土里ネット熊本は、国、県並びに市町村、各地域の土地改良区と連携しながら「熊本県多面的機能支払推進協議会」の事務局として、県内の活動組織が適切に実施することができるよう、研修会等での指導・助言、各種会議での情報発信、制度に対する理解促進のための広報活動など、幅広い取り組みにより活動組織及び行政の支援を行っています。

水土里ネット熊本は、これからも、土地改良区の活動や多面的機能支払の活動を支える地域のパートナーとして、地域の資産（たから）である『水』『土』『里』の美しさを次世代へ継承して参ります。

ー 県内の地域活動に対する水土里ネット熊本の支援状況 ー



取り組みのねらい

制度理解促進

指導力向上

技術力向上

- 1 本会の職員が中間指導研修を実施。市町村が活動組織へ実施する事への助言・指導を行う。
- 2 日地補修等技術講習会を実施。構成員の補修及び防草シート設置技術力アップを行う。



取り組みのねらい

地元事務所の
課題解決
理解促進

事務負担軽減

- 1.2 広域組織と活動組織が開催する勉強会へ参加。地域の事務局員に対して制度説明や疑問への回答を行う。



取り組みのねらい

田んぼダムの
取組推進

防災・減災
意識の向上

- 1 熊本県が設置する「田んぼダム効果等検証委員会」に本会の久保田常務理事も選任。熊本県と一体となって施策を推進。
- 2 熊本県主催の「田んぼマスター講習会」へ参加。今後は、多面的機能支払推進協議会の各ブロック会議の中で、熊本県と協力して講習会を開催予定。
- 3 県立南陵高校の生徒が熊本県と協力し、あさぎり町立あさぎり中学校の生徒へ「田んぼダム」の説明や農業体験を行う「田んぼジュニアハイスクール」を実施し、田んぼダムについての理解を深めた。
- 4.5 くまもと水土里ネット女性の会主催の「水土里マルシェ」では、「田んぼダムの取組みジオラマ模型」に対して大人のみならず、多くの子どもたちが興味を示し、「田んぼダム」という言葉が着々と知名度を上げている。ジオラマ模型を真剣に見つめる子どもの姿が印象的だった。

緑の流域
治水を
目指して

繋がる「人」、引き継ぐ「地域資源」、 発揮される「農村の力」

水土里ネット熊本の「導く」、「築く」、「拡げる」の幅広い取り組みが、人と人を引き寄せ、地域の資産（たから）を次世代へ継承し、県内各地域における多面的機能の維持・発揮に大きく貢献しています。



- 1 農業用施設を花々で彩る景観形成活動「錦町(錦町農地・水・環境保全管理協定運営委員会)」
- 2 水路の通水能力を維持するための目地詰め作業「山鹿市(山鹿地域広域協定運営委員会)」
- 3 鳥獣害防止のために防護柵を設置し農地を守る活動「玉東町(山北地域資源環境保全組合)」
- 4 農業体験を通じた交流活動「阿蘇市(阿蘇地域農地・水環境保全管理協定運営委員会)」

水・土・里
の美しさを
次世代へ



土地改良区の運営基盤の強化、県内及び全国へ水土里ネットの役割をP Rする活動

農業・農村を支えること
それは土地改良区と寄り添い、共に歩むこと

食料の安定供給の基盤として必要不可欠な土地改良施設を管理する県内各地の土地改良区。

現在、その土地改良区は組合員の減少や高齢化、土地持ち非農家の増加等により組織力の低下を招き、将来にわたる土地改良施設の適切な維持管理や更新が危惧されています。

また、令和4年度の土地改良区における複式簿記の本格導入に伴い、より実務的な支援が必要となりました。

水土里ネット熊本は、本会の会計指導員や顧問弁護士・公認会計士等と共に、複式簿記の導入による財務基盤の強化をはじめ、紛争



財務基盤の強化「複式簿記導入への支援」

会計指導員による万全なフォロー体制

土地改良区等は、令和4年度から貸借対諸表を作成するために複式簿記に移行しました。土地改良区等に複式簿記が定着するよう、水土里ネット熊本は、土地改良区の相談に対応するため、農林水産省から認定を受けた会計指導員が土地改良区へ順次訪問し、複式簿記の指導を実施しています。

また、複式簿記に関する研修会の企画・開催や小規模な土地改良区についても円滑な複式簿記における会計処理の支援を行うため、これら土地改良区と同様に複式簿記会計システム（ミラウド mini）の環境を整えるなど、フォロー体制は万全です。



－ 複式簿記導入のねらい －

資産管理
の効率化

不正
防 止

コスト意識
の高揚

処理等のための相談窓口の設置土地改良区の役職員等に向けた各種研修会の企画・開催等を実施するなど、万全なフォロー体制と豊富な支援メニューで土地改良区の運営基盤の強化に努めています。

また、様々な広報ツールやイベント、研修会等を通じ、幅広い世代に対して土地改良区や農業・農村に関する更なる認知度の向上、理解促進を図っています。

水土里ネット熊本は、これからも土地改良区の皆様と寄り添い共に歩むことで、熊本県の農業・農村を支え続けていきます。

運営基盤の強化「相談窓口の設置」

幅広いネットワーク

土地改良区には、受益者等から様々な分野にわたる相談が数多く持ち込まれます。

水土里ネット熊本は、土地改良区の独自に解決できない問題等について、本会の顧問弁護士・公認会計士等、幅広いネットワークを活用して早期の法的解決に導き、組織の運営基盤強化を図ります。



水土里ネットの 魅力を全国へ

水土里ネット熊本は、ポスター、広報誌「大地」、ホームページ等を通じ、会員情報や本会の活動等について県内及び全国に幅広く水土里ネットの魅力を発信しています。



「未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展 2022」
入賞作品「小天のみかん」
熊本市立小天小学校 3年生



広報誌
「大地」



- 1 球磨川流域地域の小学生と保護者 90 名余りが参加し、森林の学校 in かわべ川が開催。現地学習やツリークライミング、マイチュエ作りなどの体験をし、大自然と触れ合った。
- 2,3 県立高校と連携して実施した田んぼハイスクールの開催状況。参加した高校生は田植えや昔の農機具を用いた収穫等、童心に返り体験を楽しんでいた。
- 4 水土里ネット熊本の近隣の小学校による「町たんけん学習」の一コマ。地域の職場で働くことの大切さを理解してもらうとともに、児童の将来の夢や目標について考える機会を与えることを目的としている。測量機械やジオラマ、ドローンなど子どもたちにとって珍しいもののばかり。本年度までに 4 年連続開催されるほどの人気ぶり。

支える

広める

女性の活躍が
農業・農村をますます元気に



令和4年5月12日、女性の会会長・副会長、熊本県農村振興局及び連合会幹部にて行われた土地改良団体における男女共同推進についての意見交換会。

土地改良区では、女性職員が事務を担っているところも多く、女性の活躍が土地改良区の運営を支えているといっても過言ではありません。

水土里ネット熊本は、国の掲げる「第5次男女共同参画基本計画」の推進のため、国や熊本県をはじめとする関係機関と連携を強化し、本会や熊本県、土地改良区等の女性職員が多数在籍する「くまもと水土里ネット女性の会」と一体となって、農業農村地域の女性がより一層いきいきと活躍できる環境づくりに努めて参ります。

『くまもと水土里ネット女性の会』は平成30年度に発足。現在、女性の会は県内土地改良区、熊本県、連合会総勢96名が会員となり活動している。
令和4年11月5日、参加者200名を超える「水土里マルシェ」を開催。
会場では水土里ネットの役割や、田んぼダムの啓発、県内の農産物の直販、PRを実施。スタッフや来場者の笑顔がこぼれ、終始賑わいを見せた。

